

市政ミーティング開催結果

開催日時 平成28年4月20日（水）午後7時30分～8時40分
会場 福祉健康センター 多目的ホール
参加者 参加者92人
市説明者 市長、企画部長、総務部長、政策推進課長、財務課長、秘書課長

◆市民憲章唱和

◆市長あいさつ及びDVD視聴・説明（当初予算・主要な施策の概要について）

◆市長説明や当初予算・主要な施策の概要に対する意見交換

Q1 <耐震補強の支援について>

熊本の地震について大きく報道されているが、越前市も老朽化した住宅を多く抱えている。公共施設の新たな建築・改修よりも、今現在住民が住んでいる住宅の補強が必要ではないか。今回の地震を踏まえ、県や市の耐震補助に上積みをすることや、補助を利用しやすい状況を作るよう検討してもらいたい。

A1 <耐震補強の支援について> 建築住宅課長

耐震補助についてですが、まず耐震診断並びに補強プランの作成を行っております。費用10万円のうち、本人負担1万円で、耐震補強の方法と概算の経費を提案させていただきます。改修工事には最大で80万円の補助が出ます。また、特によく使用する一部屋だけなど、部分的な補助もやっております、比較的少額で済ませることもできます。

当面は耐震診断の支援や相談窓口を設けることで、皆様に情報提供をしていきます。

Q2 <中心市街地の活性化について>

新市庁舎の建設や東公民館の移転など、中心市街地の開発が進められている。そうした中で、駅前を中心とする商店街など、東地区の活性化へむけて今後どうなるのか、方向性を示してほしい。

A2 <中心市街地の活性化について> 都市計画課長

半世紀に一度のまちづくりとして、新庁舎建て替え、武生中央公園の改修、北陸新幹線の開業と合わせて、中心市街地活性化基本計画も改訂作業中です。6月にはパブリックコメントを実施し、方向性を示したいと思っておりますので、貴重なご意見等いただけると幸いです。

す。

Q3 <公共施設の使用料について>

4月から公民館・児童館で、練習で使用する際に使用料を徴収するようになった。70歳以上の高齢者の中で、運動や健康づくりに対する意欲が高まっており、毎日のように活動する地区もある。使用料の負担について減免等を検討し、活動しやすくなるように対応してほしい。

A3 <公共施設の使用料について> 財務課長

平成22年に行政監査報告があり、その中で使用料の減免の基準を設けて、公平・公正な負担を市民の方に求めるよう指導を受けたところです。これを受けまして、平成24年度に減免基準の見直しを行いました。今までは同じスポーツ活動でも、場所によって有料と無料のところがありました。昨年1年間検討し、今年度から、施設によってではなく活動によって負担をいただくよう、適正な統一基準を施行しています。ご理解のほどよろしくをお願いします。

Q4 <いきいきふれあいのつどい(サロン)について>

つどいを年12回開催すると6万円の補助金が出て、子どもも一緒に参加すればさらに補助がもらえるということだが、補助の詳しい内容について、ぜひ各地区へ担当の職員が来て説明をしてほしい。

空き家を活用すれば空き家対策にもなり、子どもも含めてつどいをやることで、つどいの活動が健康維持や痴呆対策にもつながると思う。

A4 <いきいきふれあいのつどい(サロン)について> 市民福祉部 健康長寿審議官

町内へ説明に来てほしいということですが、願ってもないことです。高齢者の方が増える中、地域の方々の支え合いによって給付金を抑制できないか、また、抑制しながら高齢者の方の生きがいや健康づくりにつなげられないかを一緒に考えていきたいと思えます。

ヘルパーによる寝台介護だけでなく、生活介護にも給付がまわっています。具体的には、買い物、雪下ろし、荷運びなどのお手伝いです。ヘルパーが集まりにくい状況で、地域の支え合いでこうしたことを解決できないか、ぜひ出向いて相談させていただきたいと思えます。

Q5 <ふれあいのつどいの助成金について>

つどいの補助金6万円についてだが、講師の謝礼などにつかえるだけで、使い勝手が悪

いように感じる。少しでもいいから何か口にできるものがあれば、場が和み、交流も深まると思う。ちょっとしたお茶やお菓子などにも使えるように、使い勝手のよい方向へ持っていくことはできないか。つどいの拡大や、回数を増やすことにつながると思う。

Q6 <ふれあいのつどいの助成金について>

今年度から年24回の予定で、子供も交えてつどいを始めた。講師を招いたり、ゲームをしたりといった活動の際、援助が出るのはいいが、やはり使い勝手が悪いと思う。少しお茶を飲んだりお菓子を食べたりしながら、お年寄りが楽しくお話をして帰ってもらうようにしたい。市の補助金を飲食等にも使えるように、使い道に柔軟性を持たせられないか。

A5・6 <ふれあいのつどいの助成金について> 市民福祉部 健康長寿審議官

6万円の助成金については、精一杯使い勝手をよくしていきたいと思います。一方で、国庫を含むお金なので、いい使い方をしたいとも考えています。このお金は、区長といった責任者ではなく、町内会に対して助成しているものです。たとえば公民館の電気代など、町内全体の費用に充てることができます。ぜひとも工夫してご活用いただけるとありがたいです。お金の使い道について、ぜひ町内に出向いて説明したいと思います。

Q7 <観光客の誘致について>

市庁舎を除き、郊外に様々な施設ができるが、いずれにしても点の状態が終わっている。これらの点在する施設を線に結び、観光の推進や人口減対策へ向けて、県外からお客さんを迎えられるように取り組んでほしい。

A7 <観光客の誘致について> 都市計画課長

ご指摘のとおり、北陸新幹線南越駅(仮称)や、紙漉き・打刃物・越前箆笥などの施設が、それぞれの地区に点在している状態です。観光客の方に来てもらうためにも、それぞれを有機的なネットワークで結び、発信することが大切だと考えています。

Q8 <越前市のジオラマについて>

テレビ番組で、動く鉄道模型のジオラマを見た。これから様々な施設ができるので、越前市全体のジオラマを作ってはどうか。どこに何があり、どういう活動をしているかが見えて分かりやすい。そうした大掛かりなジオラマも、子供から大人まで集えるのでおもしろいと思う。作成を検討してみてもどうか。

A8 <越前市のジオラマについて> 企画部長

先月、生涯学習センターに、市民の方が作られた鉄道ジオラマを展示しました。市全体

という大掛かりなものは、大変面白い発想ですが、財政的には厳しいところがあります。市民の方が作られたものがあれば、ぜひ活用させていただきたいと考えております。

Q9 <ふれあいのつどいの実施状況について>

越前市の町内では、3分の2がつどいを実施しており、残りが未実施と聞いている。国高地区でも18町あるが、4町内ではまだつどいが実施されていない。つどいを実施しているところは、市の補助を受けてますます盛んだが、実施していないところは、今後置き去りにされてしまうのではないか心配だ。また、いざ始めようとしても、公民館など市の施設がなかなか借りられず、活動する場所がない。始めるにしてもやり方がよく分からず、活動回数や内容に制約がある。まずは実態調査をし、やれていない町内に対しては、どのようにすればよいか明確なプロセスを提示してほしい。

Q9 <ふれあいのつどいの実施状況について> 市民福祉部 健康長寿審議官

現在市内177か所がつどいが開催され、一つの町内ではできないところも、2、3か所でまとまって開催しています。ご指摘の通り、「活動する場所がない」というお声ももいただいています。市長の説明でもあったように、空き家などを借りて集いができるように改修される場合、最高補助額で850万円、補助額3分の2ですので、事業ですと1275万円を上限に行政制度をつくりました。また、それに対する備品も300万円まで活用できるので、ぜひご検討いただけるとありがたいです。また、それぞれの地区で課題も違うと思うので、各地区へ伺いご相談に乗らせていただきます。

◆閉会